

愛知県産業労働部産業立地通商課国際業務企画グループ
担当 浅井、長江 内線 3404、3405
ダイヤル 052-954-6356
愛知県振興部航空対策課利用促進グループ
担当 上原、大久保 内線 2281、2283
ダイヤル 052-954-6133
愛知県振興部アジア競技大会推進課企画・調整グループ
担当 山肥田、岡本 内線 2854、2845
ダイヤル 052-954-6845

知事の東南アジア渡航中の行事結果について

8月20日、知事はインドネシアにおいて、ダルミン・ナスティオン経済担当調整大臣と面談しました。同日午後、ガルーダ・インドネシア航空本社を訪問し、エアポートセールスを実施しました。同日夜には、JOCレセプションに主催者の一人として出席し、愛知県のPRを行ったほか、関係者との交流を深めました。

1 ダルミン・ナスティオン経済担当調整大臣（インドネシア）との面談

（担当：産業立地通商課）

(1) 日時

8月20日（月）11:30～12:10（日本時間13:30～14:10）

(2) 場所

経済担当調整大臣府

(3) 面談者

ダルミン・ナスティオン経済担当調整大臣

リザル・アフアンティ・ルークマン経済担当調整大臣府次官

ルディ・サラフディン経済担当調整大臣府次官

ラフマツト・ゴーベル日本担当特使

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋商工会議所 山本会頭、中部経済連合会 栗原常務理事

中部国際空港(株) 友添社長、ジェトロ名古屋 梶田所長

(5) 内容

今回で3回目となるダルミン大臣との面談において、大村知事から同大臣に対して、2017年2月に締結したインドネシア政府との「経済交流に関する覚書」を契機として、今年1月に設置した「愛知県インドネシアサポートデスク」の運営に当たり、法制度を含む様々な情報提供や、更なる投資拡大に向けた積極的な支援を要請した。

ビジネス環境面での要望として、道路・港湾インフラの充実、税制や貿易手続きの簡素化を始めとした投資環境の改善について要請した。

また、愛知県には全国最多の約6,500人以上のインドネシアの方がお住まいであり、ここ3年で2倍以上増加していることから、愛知県への領事館の開設について、ご支援いただくよう、再度要請を行った。

更には、日本とインドネシアとの間で、経済・観光面等の人々の往来が一層活発になるよう、中部-ジャカルタ直行便の就航に向けた引き続きの支援、2026年に愛知県で開催するアジア競技大会開催に向けた協力、並びに2023年の技能五輪国際大会に係る招致に向けた支援をお願いした。

これに対して、ダルミン大臣から、3回目の大村知事との会談について歓迎の意が示されるとともに、今年1月の愛知県サポートデスクの設置について、謝辞が述べられ、愛知県企業のインドネシアへの投資を積極的にサポートしたい旨のコメントがあった。

また、インドネシア政府が進める企業の投資に対する優遇制度、許認可申請の電子化等について言及があり、こうした制度やシステムの活用を通じて、より多くの愛知県企業、とりわけ中小企業がインドネシアへ進出することを期待する旨の言葉が述べられた。

あわせて、中部－ジャカルタ直行便の就航について、バックアップしたい旨の回答があった。

日本側から、法人税予納制度について税率が引き上げられることとなることから、日本企業の投資が冷え込む懸念があり、善処をお願いしたいと指摘した。

[大村知事と経済担当調整大臣府ダルミン・ナスティオン大臣との面談風景]



[大村知事とダルミン・ナスティオン経済担当調整大臣]



(知事右側よりダルミン経済担当調整大臣、ゴーベル日本担当特使)

2 ガルーダ・インドネシア航空へのエアポートセールス（担当：航空対策課）

(1) 日時

8月20日（月）14:20～15:30（日本時間 16:20～17:30）

(2) 場所

ガルーダ・インドネシア航空本社

(3) 面談者

パハラ・ヌグラハ・マンスリCEO 等

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋市 松雄企画調整監、名古屋商工会議所 山本会頭、
（一社）中部経済連合会 栗原常務理事、中部国際空港㈱ 友添社長、
ジェトロ名古屋 梶田所長 等

(5) 内容

大村知事、地元経済団体及び中部国際空港会社から、愛知県からインドネシアへは自動車産業始め多くの企業が進出しておりビジネス需要が見込まれること、本県に在住するインドネシア人は日本最多であること、訪日インドネシア人は増加しており観光需要も見込まれることなどを訴え、中部国際空港とジャカルタを結ぶ直行便の早期就航を要請した。

これに対し、ガルーダ・インドネシア航空のパハラ・ヌグラハ・マンスリCEOから、「要望の趣旨はよく理解しており、産業力の強い中部地域は重要なマーケットだと考えている。ただし、目下、機材の不足など難しい課題がある。地元経済界等からのサポートを見極めながら、ジャカルタから日本を經由し北米に飛ぶ路線を含め、あらゆる可能性を引き続き検討している。」との発言があった。

パハラ・ヌグラハ・マンスリCEOとの面談の様子





パハラ・ヌグラハ・マンスリCEOへの記念品の贈呈



面談参加者全員による記念撮影



3 JOC レセプション（担当課：アジア競技大会推進課）

(1) 日時

8月20日（月）18:30～20:00（日本時間 20:30～22:00）

(2) 場所

ホテル ムリア セナヤン（ボールルーム2）

(3) 出席者 約500名

（主催者側）

竹田恆和 日本オリンピック委員会会長

山下泰裕 第18回アジア競技大会日本代表選手団団長

石井正文 駐インドネシア日本国大使

大村秀章 愛知県知事

河村たかし 名古屋市長（5者共催）

（招待者）

国際オリンピック委員会、アジア・オリンピック評議会、
各国オリンピック委員会、国際競技団体、アジア競技団体、国内競技団体、
スポーツ庁、東京2020組織委員会、日本選手団、スポンサー等の関係者

(4) 内容

大村知事は、国際的に活躍しているスポーツ関係者等が参加したレセプションの乾杯挨拶の中で、2026年アジア競技大会の開催地として愛知を紹介するとともに、東京オリンピック・パラリンピックで東京へ来る際には、是非愛知へもお越しくださいとようアピールした。また、多くの関係者と歓談し、愛知・名古屋大会に向けて関係を深めた。

レセプションの途中には、愛知の広報動画「愛知の引力」を放映し、愛知・名古屋の美しい映像を堪能していただいた。

あわせて、会場では愛知・名古屋のPRブースを設け、忍者が参加者をおもてなした。



大村愛知県知事の挨拶



大村愛知県知事と河村名古屋市長による乾杯発声



アハマド OCA 会長、山下日本選手団団長、
各国のオリンピック委員会関係者他



竹田 JOC 会長とエリックインドネシア大会組織委員会会長



鈴木スポーツ庁長官、山下日本選手団団長、
徳田日本ソフトボール協会会長



石井駐インドネシア大使ご夫妻と愛知・名古屋
大会を PR する忍者



リンドバーグ前 IOC 理事と忍者